埼玉県

所沢市

所沢市は文化庁の100年フード認定された日本三大銘茶
「狭山茶」の主産地です。市内富岡地区を中心に江戸時代から続く
武蔵野の落ち葉堆肥農法は2023年に世界農業遺産に認定されました。





PROFILE

総人口　343,418人	農家戸数　1,356戸
総面積　72.11㎢	農地面積　1,410ha

主な農産物　狭山茶、里芋、人参

自治体の取り組み ❶




茶ンパンタワー

所沢の名産品である狭山茶の魅力を発信するため、シャンパンタワーならぬお茶のタワー「茶ンパンタワー」を開発。所沢市で商標登録の手続きを行い、市内外へ狭山茶を発信しています。

自治体の取り組み ❷

参加できる世界農業遺産
「武蔵野の落ち葉堆肥農法」

木々を植えて林を育て、集めた落ち葉を堆肥として活用する江戸時代から伝わる農法。落ち葉掃きは参加型で行われます。環境再生型（リジェネラティブ）農業の精神を未来へ！




千葉県

千葉市

千葉市は、緑豊かな下総台地の平坦地におおわれ、
その一部は、東京湾に接しており、温暖な気候と肥沃な土地、
豊かな緑と水辺など自然環境に大変恵まれています。









PROFILE

総人口　994,540 人	農家戸数　　911 戸
総面積　　271.76 ㎢	農地面積　1,652ha

主な農産物　ニンジン、イチゴ、コマツナ





自治体の取り組み ❶

千葉市食のブランド「千」

千葉市の農産物・加工食品・食関連サービスを対象に、優れた地域産品であると同時に社会課題の解決に取り組む生産者・事業者のつくる商品・サービスを「千」として認定しています。

自治体の取り組み ❷

体験型農園（いちご観光農園）

千葉市では、古くからイチゴの栽培がさかんで、
市内には約２０園のいちご農園があります。そして、
”千葉市のイチゴで BERRY HAPPY” を合言葉に観光農園の推進を行っています。





千葉県

松戸市

松戸市は、首都圏のベッドタウンとして発展し、
都心への近さもありながら、自然や公園といったみどりもたくさんあり、
歴史的名所も豊富な都市となっています。



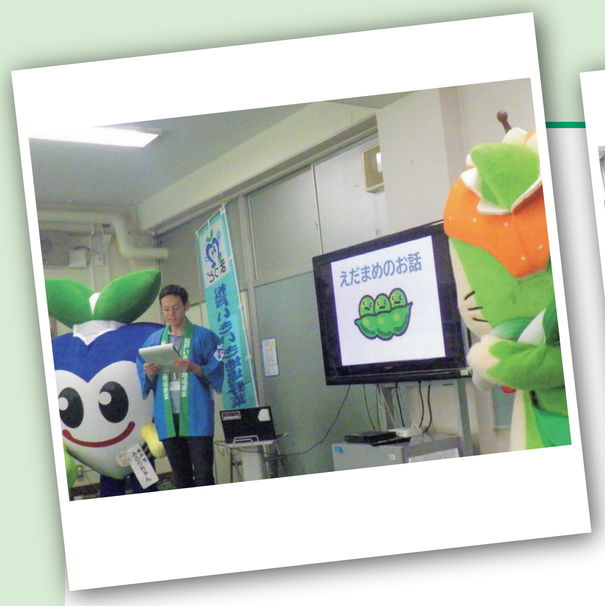




PROFILE

総人口　502,374 人	農家戸数　662 戸
総面積　61.38 ㎢	農地面積　631ha

主な農産物　ねぎ、梨、枝豆





自治体の取り組み ❶

市内農産物のブランド化推進

シンボルマークである「みのりちゃん」ロゴマークの表示やみのりちゃんの着ぐるみを活用したまつど大農業まつり等における農産物の PR 活動や、えだまめ学校給食を通じてブランド野菜の導入を推進しています。

自治体の取り組み ❷

えだまめオーナー農園

松戸市のブランド野菜である、枝豆の収穫体験ができます。農家さんが育てた美味しい枝豆を、自分の手で収穫する特別な体験を楽しめます。毎回抽選となるほどご好評をいただいております。



東京都

練馬区

練馬区は東京都心近くに位置しながら、農地や公園など
多彩なみどりに包まれた暮らしを楽しむことが出来る美しい住宅都市です。







PROFILE

総人口　752,889 人	農家戸数　364 戸
総面積　48.08 ㎢	農地面積　166.34ha

主な農産物　キャベツ、ダイコン、ブロッコリー





自治体の取り組み ❶

気軽に楽しめる収穫体験

区内には、野菜の収穫体験が楽しめる農園「ねりまベジかるファーム」や果実の摘み取りが体験できる「練馬果樹あるファーム」がたくさんあります。

自治体の取り組み ❷

農の情報発信アプリ「とれたてねりま」

庭先直売所や地産地消のお店、マルシェなど情報を掲載したアプリ「とれたてねりま」を配信しています。農に関する情報が満載のアプリを使って練馬の新鮮な食材を楽しめます。





東京都

国分寺市

東京都の重心に位置し、約 300 年前の新田開発をきっかけに
農業が広がりました。市内産農畜産物を「こくベジ」の愛称で
ブランド化し、地域活性化に取り組んでいます。







PROFILE

総人口　130,069 人	農家戸数　157 戸
総面積　11.46 ㎢	農地面積　128.6ha

主な農産物　トマト・ブルーベリー・東京ウド





自治体の取り組み ❶

地場産農畜産物のブランド化「こくベジ」

こくベジプロジェクト推進連絡会（JA 東京むさし国分寺支店 / 国分寺市商工会 / こくぶんじ観光まちづくり協会 / 市等）が主体となり、こくベジの PR を通じた地産地消を推進しています。

自治体の取り組み ❷

庭先直売所と
こくベジメニュー提供店の PR

市内約 60 か所の庭先直売所や約 100 店舗あるこくベジメニュー提供店（こくベジを使用しオリジナルメニューを提供している市内飲食店）を PR するイベントや広報を実施しています。





神奈川県

横浜市

横浜市の農業は消費者に近い都市部で展開され、野菜をはじめ、
果樹・花き、米、畜産など多様な作目が生産され、
地産地消をはじめとする多様な販売形態が特徴です。





PROFILE

総人口　3,760,000 人	農家戸数　3,056 戸
総面積　437.40 ㎢	農地面積　2,694ha

主な農産物　コマツナ、キャベツ、なし、シクラメン




自治体の取り組み ❶

地産地消を広める人材の育成
～はまふぅどコンシェルジュ講座～

座学や農作業実習などの全５回の講座を修了した方を、地産地消を広げる人材「はまふぅどコンシェルジュ」として認定し、市内での地産地消活動の推進に取り組んでいます。

自治体の取り組み ❷

企業等と連携した地産地消の推進

地産地消を広げるため、企業と連携し、地産地消のマルシェ・PRイベントの開催や、市内産農畜産物を使用した商品・サービスの立ち上げ支援を行っています。




神奈川県

川崎市

川崎市では都市農業の特性を活かし、
少量多品目栽培で様々な農作物が生産されています。







CC BY 4.0 by 川崎市

PROFILE

総人口 1,560,533 人	農家戸数 829 戸
総面積 144.35 ㎢	農地面積 494ha

主な農産物　ナシ、トマト、キュウリ





自治体の取り組み ❶

かわさき観光農園

工場や住宅地のイメージが強い川崎市ですが、市内では野菜や果物・花卉などが栽培されています。新鮮な農作物を自分の手で収穫し、その場で食べる観光農園のPR等の取組を行っています。

自治体の取り組み ❷

川崎市内産農産物「かわさきそだち」についての情報発信

かわさきそだちPRキャラクターの菜果（さいか）ちゃんが、かわさきで愛情いっぱいに育てられた野菜・くだもの・たまご・お花など「かわさきそだち」の農産物やイベント情報を紹介しています。



